

北海道機船漁業(釧路)プロジェクト もうかる漁業創設支援事業実証結果報告

【事業実施者: 釧路機船漁業協同組合】
実証期間: 平成22年9月1日～平成25年8月31日

釧路地区の沖合底びき網漁業において、共通船型で軸発電機を備えた160トン型省エネ船を導入し燃料費及び建造コスト等の削減により生産コストの削減を図るとともに、船内魚倉用コンテナの導入と陸上タンク利用に基づく高鮮度・高品質鮮魚出荷増による水揚げ金額の向上を図り、収益性改善を実現するための実証事業を行った。

実証項目

【生産に関する事項】

①軸発電機の導入と船体構造の改善により、燃油消費量の削減

②共通船型による建造費の削減

【流通・販売に関する事項】

①魚倉内コンテナ導入と陸上タンク利用による高鮮度・高品質鮮魚出荷による魚価向上



実証結果

【生産に関する事項】

①省エネ機能を備えた実証船の燃油消費量は、初年度760kl、第2年度783kl、第3年度770kl、3ヶ年平均771klであった。一方、実証船と同規模で同様の操業パターンをとる釧路機船所属船の燃油消費量は平均865klであり、省エネ機能を有した実証船の燃油削減率は従来船に比較して約10.9%であった。この結果、軸発電機及び省エネ船型の導入は燃油消費量削減による生産コスト削減に有効であることが実証された。

②共通船型の建造によって建造費の低減を目指したが、近年の燃油価格の高騰を始めとした諸資材価格等の高騰に伴う建造費の増大により、期待した程の効果は得られなかった。

【流通・販売に関する事項】

①船内魚倉コンテナを用いた高鮮度スケトウダラの水揚げ量、水揚げ金額及び平均販売価格は、初年度で716トン、32百万円、45円/kg、第2年度では771トン、33百万円、43.2円/kg、第3年度では886トン、34百万円、38.9円/kgであった。この平均価格は、従来通りの方法で水揚げした製品の平均販売価格に比して、初年度で16.5%、第2年度で19%、第3年度で21%高かった。この結果、船内魚倉用コンテナを用いた製品の水揚げが販売価格の向上に有効であることが実証された。

収支の状況について

上記のとおり、実証項目については一定の成果を得た。収支に関して、当該実証期間3ヶ年の平均水揚げ量は5,855トンで改革計画の目標値4,400トンを大幅に上回った。他方、当該3ヶ年の平均水揚げ額(436百万円)は、主要漁獲物であるスケトウダラの販売価格が第2年度以降において東京電力福島原子力発電所の事故による放射能汚染に起因する韓国の輸入禁止措置等の影響により、3か年平均35.6円/kgと改革計画の目標値を大幅に下回った。結果、3か年平均の償却前利益は、28百万円で、改革計画の目標値56百万円を下回った。1日も早い風評被害等の改善が望まれている。